有鉤骨鉤骨折の自然治癒例

尾上 英俊* 木村 一雄* 松永 和剛* 濱田 賢治*
山口 史彦* 中村 厚彦* ファンジョージ*Natural Healing of Fracture of the Hook of Hamate :
A Case ReportHidetoshi Onoue*, Kazuo Kimura*, Kazutaka Matsunaga*, Kenji Hamada*,
Fumihiko Yamaguchi*, Atsuhiko Nakamura*, and Huang George*

有鉤骨鉤骨折の自然治癒例と思われた1例を経験したので報告する。症例：19歳男性 バイク走行中に左手をついて転倒した。初診時のX線では異常を認めなかったため、外固定は行われなかった。受傷後1ヵ月、軽度の疼痛が持続するためCTを行い鉤基部に骨折を認めた。ギプス固定を勧めたが同意が得られず、大学生として普通に生活した。受傷後3ヵ月のCTで骨の連続性を認め、受傷後8ヵ月の最終調査時には完全に骨癒合し、全く症状を認めなかった。この症例は挫創のため約1ヵ月手を使えなかったこと、非利き手であったこと、バイクに乗らなかったことが骨癒合に有利に働いたと考えられた。しかし骨折に対するギプスや低出力超音波パルスなどの医学的な治療は行っていないにもかかわらず骨癒合が得られた。

A 19-year-old male smashed his left hand in a motorbike accident. As no significant pathological finding was made in his first X-ray, no fixation was applied. One month later, the patient suffered mild pain in his left hand. Subsequent CT scan was performed which revealed fracture of the hook of hamate. The patient refused casting or any special treatment. A CT scan of the fracture at 4 months showed evidence of healing, and no symptoms were found at 8 months. As the patient was right-handed, he could not use his left hand and motorbike, which contributed the complete union of this fracture without any special treatment.

Key words : hook of hamate (有鉤骨鉤), fracture (骨折), natural healing (自然治癒)

は じ め に

新鮮有鉤骨鉤骨折はギプス固定などの保存療法で良好な結果が得られるといわれているがその報告例は少ない。今回、外固定を行わず、生活指導だけで骨癒合が得られた有鉤骨鉤骨折を1例経験したので報告する。

症 例

【症例】19歳 男性

現病歴：平成17年11月、バイク走行中に車と衝突し左手をついて転倒し受傷、直後に当院救急外来を受診した。この時は手掌部に挫創・皮膚剥離を認めたが、X線で骨に異常を認めなかったため外固定は行われ

なかった。受傷後1ヵ月で創は治癒したが、手関節部の運動時痛が持続するため整形外科を受診した。

現症：小指球部の創痕に一致して圧痛と手関節掌背屈運動での疼痛を認めた。

画像所見：単純X線（手根管撮影）では骨傷を認めず、CTで鉤基部に骨折を認めた（図1）。

治療：ギプス固定と骨片切除術について十分に説明し、ギプス固定を勧めたが患者側の同意が得られなかった。このため腱断裂などの合併症と偽関節になった場合の治療として、骨片切除術について再度説明を行い、疼痛が生じる行為をしないこと、特にバイクに乗らないことを指導し経過を見ることにした。

経過：骨折の状態はCTで確認することにした。疼

* 福岡徳洲会病院整形外科 Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka Tokushukai Medical Center, Fukuoka, Japan

図1 19歳男性 CTで鉤基部の骨折および骨癒合を確認した

痛は受傷後2ヵ月頃から徐々に消失していた。受傷後3ヵ月、4ヵ月のCTで骨の連続性を漸次認め、受傷後8ヵ月の最終診察時には完全に骨癒合し全く症状を認めなかった(図1)。

考 察

有鉤骨鉤骨折は偽関節となって診断される場合が多く、受傷直後に診断がなされることは比較的少ない。合併症のない偽関節の治療は骨片切除術により安定した成績が得られており、新鮮例でも早期にスポーツ復帰を目指す場合などには骨片切除術が行われている¹⁾³⁾⁴⁾。

保存療法の報告として Whalen らは新鮮骨折6例に対し平均11週(6~12週)の外固定を行い、平均8週(6~19週)で6例とも骨癒合が得られたと報告している⁵⁾。最近では若年者の陳旧例に対し外固定を行わず、低出力超音波パルスを照射するだけで癒合が得られたとの報告も見られる²⁾。

今回の症例は挫創のため受傷から約1ヵ月手を使えなかったこと、患側が食事や書字行為にあまり関係しない非利き手であったこと、バイクに乗らなかったことなどが骨癒合に有利に働いたと考えられた。しかし受傷直後から外固定は行っておらず、診断確定後も低

出力超音波パルスなどの医学的な治療は行わなかった。また経過観察期間中は大学生としての日常生活をごく普通に行いながらも骨癒合が得られたことから、この症例は有鉤骨鉤骨折の自然治癒例といえるのではないかと考えられた。

結 語

有鉤骨鉤骨折は早期に診断され適切な治療を行えば、保存的に骨癒合が得られるといわれている。今回の症例はその結果を裏付ける1例であった。

参 考 文 献

- 1) Bishop, A. T., Beckenbaugh, R. D.: Fracture of the hamate hook. J. Hand Surg., 13A(1): 135-139, 1988.
- 2) 藤岡宏幸ほか: 有鉤骨鉤骨折に対する超音波治療と鉤切除術の比較検討. 日手会誌, 22(2): 54-57, 2005.
- 3) 村上恒二ほか: スポーツにおける有鉤骨鉤骨折の診断と治療における問題点. 臨床スポーツ医学, 9(8): 925-930, 1992.
- 4) 鈴木勝憲ほか: 有鉤骨骨折の治療成績について. 日手会誌, 12(1): 125-128, 1995.
- 5) Whalen, J. L., Bishop, A. T., Linscheid, R. L.: Nonoperative treatment of acute hamate hook fractures. J. Hand Surg., 17A(3): 507-511, 1992.